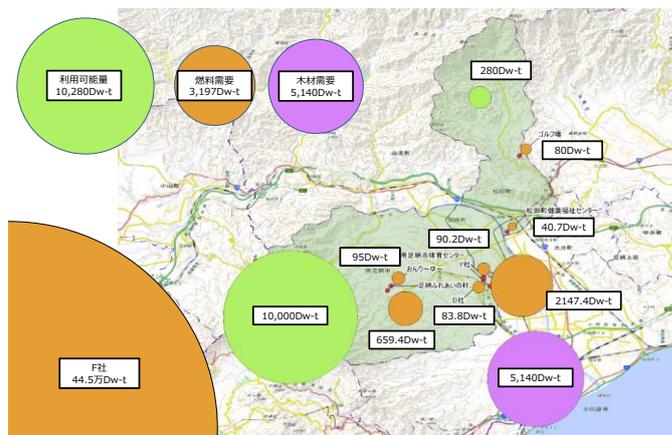


循環型農工融合システムの構築に関する包括的研究	
題目	酒匂川流域地域循環共生圏の検討
著者	中野健太郎、永井祐二

**概要**

神奈川県西部の南足柄市、開成町、松田町の連携による木質バイオマス利活用のフィールド研究として、地域の地域循環共生圏をめざすプロジェクト群のプロファイリングマネジメントを実施し地域における複層的な循環資源の関係、アクターを明らかにし、プログラム実現のためのストーリー分析を行った。特に地域の資源量や需要量を精査することで、これまで曖昧であった地域のストーリーの規模を明確にすることが、合意形成においてどのように機能したかを分析する。

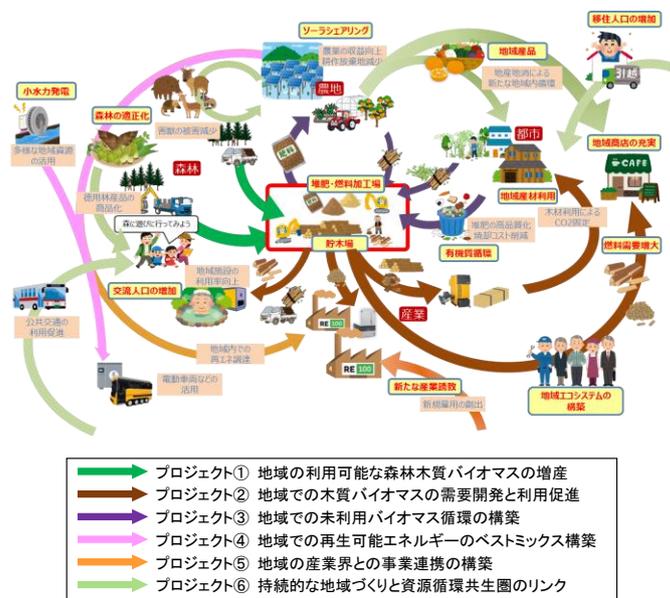


周辺熱需要と木質バイオマス利用可能量の比較チャート図  
地域循環共生圏における連続的なプロジェクト創出

一つの循環を木質バイオマスで構築することで、これに付随するさまざまな地域のプロジェクトが改善していく、連続的なプロジェクトの好循環を構築する可能性があるかを考察対象とした。

地域循環共生圏を木質バイオマスの利活用から構築するプログラムの要素となるプロジェクト群の設計を行った。

**次年度の研究計画**



**本年度の研究開発、成果**

地域循環圏域の構築が困難なところは、さまざまな地域の主体の連携、いわゆるエコシステムを構築する必要がある。そこで、最初のトリガーとなる地域社会のエコシステムの構築モデルとして、木質バイオマス循環のプロジェクト創出を中心に検討を行った。

このプロジェクトは、推進役である行政、主に資源循環の上流（供給側）で役割をなす林業者・NPOなど、下流（需要側）のエネルギー需要者・先進企業などの連携主体が関わってくる。それぞれの目的を達成するため、地域のミッションとビジョンを確認し、推進する機関として、地域の協議会「酒匂川流域循環共生圏協議会」が設立された。この協議会は、地域循環共生圏構築による価値の創出を共有し、連携・実績の検証を行い、全体のマネジメント組織としての機能が期待されている。実際に以下の成果からプロジェクトの検討が行われた。

**地域の数値的データ把握**

本年度の研究成果に関連する重要なポイントとして、地域循環圏域の「地域」を特定するために、各種の数値データを明確にしたデータの内容を示す。

**燃料供給ポテンシャルの解析に用いた条件と結果**

条件	松田町 (ha)	南足柄市 (ha)
全森林面積	2,857	5,726
条件①スギ・ヒノキ林面積	1,322	3,546
条件②傾斜 30° 以下、かつ車道からの距離 200m	302	2,803
条件③標高 800m 以下	98	2,640
条件④水源の森づくり対象地を除外	69	2,241
年間利用可能資源量 (Dry-t/年)	140t/年	5000t/年

木質バイオマスの利活用を促進する①、②のプロジェクトを軸に、広がりを見せる枠組みを示している。まずは、生産現場における諸課題の問題点・課題を総括し、プロジェクト①としてまとめ、その後、プロジェクト②以降の広がりを計画している。